

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

きらりNet

平成24年12月21日

第29号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

第58回全国肢体不自由教育研究協議会 沖縄大会

11月14日（水）から3日間の日程で、沖縄県男女共同参画センター「ているる」を主会場として、第58回全国肢体不自由教育研究協議会沖縄大会が開催されました。「自立と社会参加につなげる特別支援教育の推進～確かな授業改善をめざして～」のテーマのもと、全国各地より参加された多数の先生方とこれからの肢体不自由教育について研究協議を行いました。

大会期間中、講演会、分科会研究協議、ポスター発表、授業参観が行われ、特に各分科会協議では、肢体不自由教育の専門的な実践や研究内容に、会場の参加者から多数の意見が寄せられました。どの分科会も、参加者の発表に熱心に聞き入る姿や意見交換をする姿が見られ、活発な協議となりました。またポスター発表では先進的な取組が多数発表され、各パネルの前では、熱く意見が交わされていました。

記念講演

沖縄県文化観光スポーツ部部長の平田大一先生が「一流の島人になりたい～現代版躍奉行 平田大一の挑戦」という演題で、演奏や映像を交え、迫力のあるお話を聞かせてくださいました。

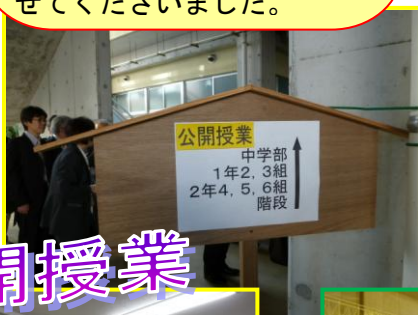


分科会



各分科会、ポスター発表では熱い意見交換が行われました。

公開授業



ポスター発表



大会3日目には沖縄県立泡瀬特別支援学校で授業公開が行われ、実践的な授業を参観することができました。また全体会では「沖縄県立泡瀬特別支援学校の授業改善」というテーマで研究の取組が報告され、3日間の大会の幕を閉じました。

第59回秋田大会は来年11月に本校等を会場に開催されます。詳細は本校ホームページにて紹介していきます。

連載 本校の授業の様子から

訪問教育の教材教具2012

今年度の訪問教育の児童生徒は11名です。自宅で学習をしている児童生徒が7名、医療療育センターに入所して病室で学習している児童生徒は4名です。

児童生徒の学習は、普段は自宅の居間や病室のベッドで実施しているため、学習スペースが限られています。そのため、個々の姿勢や見え方、手の可動域等に配慮して、教材教具を制作したり、選んだりしています。



【下からミタ〜イ】

寝たまの姿勢で、「ビーズ転がしアート」など、児童生徒の姿勢に合わせて追視を促す活動ができます。ビニールの縁を段ボールで補強しているため、軽くて薄いため、持ち運びや収納にも便利です。

※ゆり養護学校道川分教室での教材教具を参考に作成しました。



【どこでもプール】

ベッドサイドでも水の感覚学習ができます。腕の可動域に合わせてられるようにビニールにワイヤーをいれた変形自在の簡易プールです。

新連載！本校のタブレット型端末の活用 ①

前号でお知らせした、本校のタブレット型端末（主に iPad）の活用、今号から具体的な活用場面を紹介します。まずは、画面に触れることによって音が出たり、画面や画像が動いたりというタッチパネルやアプリケーション動作の特性を生かした活用例です。

- 例えば……
- ①動物の絵に触れる → 鳴き声が聞こえる
 - ②夜背景の画面に触れる → 色とりどりの花火があがる
 - ③水面に触れる → 水面が揺れる、音が聞こえる

このように変化が起こるアプリを選択して利用しています。

自分が触れる → 変化が起こる という因果関係を習得するための学習で活用しており、繰り返し取り組んでいくことで、自分から画面に視線を向けたり、手を伸ばしたりする動作を引き出すことも目標にしています。

touch!



秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 五十嵐 昌司 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573 FAX：018 (889) 8575